笙の川（しょうのがわ）について

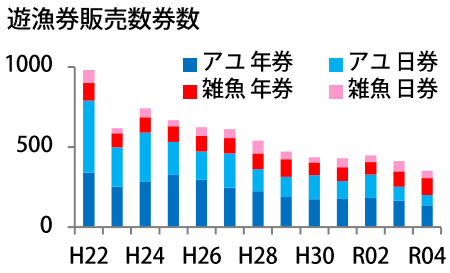
笙の川は、福井県敦賀市の池河内（いけのこうち）付近に発し、五位川、黒河川（くろこ）、助高川（すけたか）及び木の芽川（きのめ）等の支川郡を合わせ、敦賀市街地を貫通して敦賀湾に注ぐ。河川延長 18.3km の二級河川で、流域面積の約 2％が市街地（下流三角州性低地）、6％が農地（中流扇状地）、それ以外は山地（上流山地）で構成される。

笙の川の現状

笙の川の水源地周辺は、クリ-ミズナラ群落、ブナ-ミズナラ群落などの広葉樹林が広がっている。また、笙の川の上流域にはイワナ、ヤマメ、中下流域にはアユが生息し、県内外から多くの遊漁者が集まる。

しかし、現在、遊漁者数が減少している。また、社会の変容とともに、川で遊ぶ子どもたち（川ガキ）が大幅に減少し、人と川との関係が希薄化している。加えて、アユ釣り等解禁前に草刈など河川清掃してきた漁業者の減少や高齢化によって、堤外地の管理が行き届かず、草木が繁茂するようになり、親水性が損なわれ、不法投棄が目立つようになった。

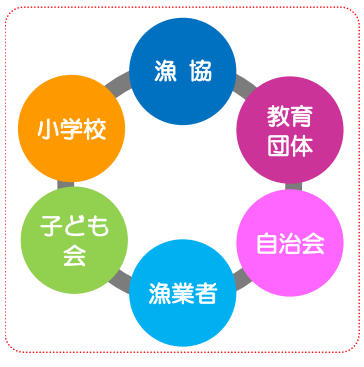
流域住民の川に対する興味や理解の増進、また川の愛好家でもある釣り人を増やすことは、河川環境の保全につながる。また、こうした課題への対策を図る上で、草刈等による親水性の回復が求められる。



組織の設立と活動の目的・方針

上記課題の中、笙の川の河川環境の荒廃を懸念した敦賀河川漁業協同組合（漁業者・漁協）が主体となり、「敦賀河川を守る会」を平成 25 年度に設立した。体制は、漁協・漁業者だけでなく、小学校長や自治会長、子ども会、ボーイスカウト指導者で構成。活動目的は、河川環境の保全と、次世代を担う子どもたちの河川への興味喚起である。

活動組織



○ 河川環境の保全

河川環境の保全及び親水性の回復を目的に、草刈やゴミ拾いなどの河川清掃を行う。また、川床の掘り起こしを実施し、浮き石状態に再生し、川の生産力の向上を図る。

○ 子どもや保護者の河川への興味喚起

体験学習等を実施し、次世代を担う子どもたちやその親世代に川の魅力を伝え、その保全への関心を高める。

川の環境を保全し、笙の川の関心を高める

（1）河川環境の保全

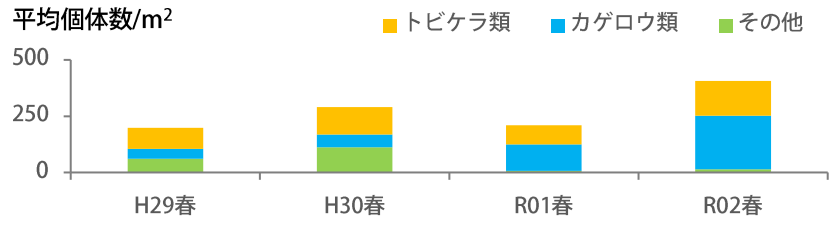
河川環境の保全及び親水性の回復を図ることを目的に、自治会や地域バランティアの協力を得ながら、堤外地の草刈りやゴミの回収を行っている。また、最近、川の瀬に砂が顕著に堆積（河床の沈み石化）し、魚介類の餌となる水生昆虫や藻類の生息・生育に悪影響を与えていることから、河床の掘り起こし（河床耕うん）を、重機や人力で行っている。

（2）子どもたちや保護者の河川への興味喚起

子どもやその保護者を対象に、「出前授業」や「魚ふれあい体験」イベントを開催している。

出前授業では、稚アユの放流体験をした小学校を訪問し、成長したアユの姿を観察してもらったり、その生態や生息環境の現状を伝えたりしている。また、それを踏まえて釣り方を教えたり、クイズをしたりする。

一方、魚ふれあい体験では、市内の子どもやその保護者を対象に、笙の川の魚のことや河川環境を守ることについて座学したり、魚の水槽展示やアユのふれあい体験をしてもらったり、アユの試食体験を行ったりしている。

活動の効果と今後の課題

河川清掃は、景観や人の川への侵入が良くなったと、住民や釣り人に高い評価を得ている。また、きれいな水・底質の指標となるカゲロウ類やトビケラ類の個体数は、ここ 4 年、前者は増加、後者は安定しており、河床耕うん等の成果がうかがえる。出前授業や魚ふれあい体験は、先生や保護者からの評判も良く、地元ケーブルテレビ等のメディアの取材がきたり、他の学校からの問い合わせがきたり一定の評価を得ている。ただし、新型コロナウィルスの感染防止のために、ここ 3 年開催できておらず、小学校や子ども会、ボーイスカウトなどとの連携体制を含めて再構築する必要がある。